

GEYMS
ノートブックタイプの汎用超音波診断装置
「LOGIQ e」を発売
(2006/6/6)

GE横河メディカルシステム(株)は、ノートブックタイプの可搬型汎用超音波診断装置「LOGIQ e(ロジック・イー)」を発売した。診療所、検診施設、病院の病棟・手術室など幅広い医療施設を対象に販売していく。「LOGIQ e」は、同社の汎用超音波診断装置ブランド「LOGIQ」シリーズとしては「LOGIQ Book XP(ロジック・ブック・エクスピー)」に続いて、2機種目のノートブックタイプとなる。「LOGIQ」シリーズの上位機種に搭載された機能を移植することで、据え置き型装置と同レベルの高性能・高画質を実現した。



GEYMS
(LOGIQ e)

<主な特長>

● 小型・軽量化

大きさは、幅340mm、奥行き287mm、高さ61mmで重さは約4.6kgという小型・軽量化を実現している。狭いスペースでも設置が可能のほか、ハンドルつきで、持ち運びが容易である。また、時間や場所を選ばず検査室外での検査も手軽に行うことができる。

● 質の高い基本画像

据え置き型の中堅機種「LOGIQ 5(ロジック・ファイブ)」と同等の基本画像を実現。また、高解像度15インチのLCDモニターにより十分な画面サイズで操作できる。さらに、トラックボール、バックライトを採用し、据え置き型に近いキーボードのレイアウトになっている。

● コンパクトかつ高性能

立ち上がりは約25秒、切り替え時間は約1秒で、すぐに使用可能なほか、40GBの大容量ハードディスクを搭載。DVD-RW、USB、DICOMIにも対応している。検査終了後に画像を調整できる「Raw Data Management機能」も搭載しており、コンパクトでありながら、高性能となっている。